

令和8年度 佐賀市立中川副小学校 教育課程

1 学校教育目標

気づき 考え 実行する 児童の育成 ～博愛の里 のびゆくわれら 中小っ子～

2 本年度の重点目標

児童の主体性を高めることをねらいとした「チーム運営(低・中・高学年ごと)」と「プロジェクト運営(校務分掌組織)」に重点を置いた教育活動を展開し、ブラッシュアップを重ねていく。

3 重点取組内容

(1)学習指導の充実(「学力向上プロジェクト部会」のリードにより)

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、職員間で学び合い、授業改善に努める。
- ・「宿題」から「家庭学習」への変換を図り、発達段階に合わせて、児童が主体的に学ぶ手立てを探る。
- ・読書が児童のwell-beingを高めることを職員間で学び合い、手立てをもって、児童の読書活動の充実を図る。
- ・タブレットPCの効果的な活用方法を探り、児童の主体的な学びを促進する。
- ・学級活動(1)において一連の活動を保障し、児童の主体性を発揮する機会と場づくりを促進する。
- ・児童の学びにつながる掲示等を考え、学習環境を整備する。
- ・児童の委員会組織「まなび委員会」と連携しながら、よりよい学びの手立てを探っていく。

(2)生徒指導の充実(「博愛プロジェクト部会」のリードにより)

- ・発達指示的生徒指導を大切にし、いじめや不登校の未然防止に努める。教師による指示を減らし、支援を増やしていく。
- ・道徳性の涵養を全教育活動において目指す。佐野常民の生誕の地の学校として、特に「博愛」の心の涵養をねらい、児童が「博愛」について考える機会を意図的・計画的に設定する。
- ・理論教育と実践教育の両方に力を入れ、JRCの理念の理解を促進する。
- ・児童会活動(委員会、代表委員会、縦割り活動)の運営方法を、児童の主体性を高める視点で改善する。
- ・全職員による児童のよさ見つけ活動(「きらりプロジェクト」)に取り組んだり、Web-QUを学級経営に活かしたりすることで、児童の自己肯定感の向上及び学級経営の充実をめざす。

(3)特別支援教育の充実(「健康・安全プロジェクト部会」のリードにより)

- ・特別支援コーディネーターを中心として、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成・活用し、切れ目のない支援を行う。
- ・子ども支援会議を特別支援コーディネーター、教育相談担当、生徒指導担当が連携して開催し、個別の支援体制の充実を図るとともに、適切な学習環境・生活環境づくりの工夫を共有する。
- ・教員や保護者のニーズに応じ、早期に、また定期的にケース会議を実施する。ケース会議を通して、支援の見直しを行ったり、必要に応じて医療機関や相談機関等に繋がったりする。

(4)チーム運営・プロジェクト運営の推進(校内研究を通して)

- ・低学年チーム、中学年チーム、高学年チーム、サポートチームのチーム運営に力を入れ、児童のよさを多面的に認めていくとともに、チームでサポートできる体制を整えていく。
- ・児童による委員会組織と教師によるプロジェクト組織を連携させ、児童の主体的な活動を推進する体制を整えていく。

(5)コミュニティ・スクールとしての進化

- ・児童が主体性を発揮できる機会と場を保障できるようなカリキュラム・マネジメントを促進する。地域と連携している行事について、児童の主体性を高める視点で見直し、改善する。
- ・学校運営教委議会における熟議を通して、児童の主体性を高めるためのよりよい環境づくりを探る。